

# CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

## 要介護高齢者の口腔ケアにおける オーラルアクアジェルの臨床応用



埼玉県 医療法人尚寿会大生病院 歯科・口腔外科  
歯科医師 歯科医師 歯科医師  
阪口英夫 雲津 響 栗屋 剛

歯科医師 歯科医師  
大江智可子 阿部勝一

### はじめに

高齢社会の進展により、要介護高齢者は増加しており平成19年現在では全国で約370万人(要支援を含む:平成19年9月介護給付費実態調査より)が介護保険より介護サービスを受けているといわれる。歯科における日常臨床においても、要介護高齢者の受診は増えているものと推測される。要介護高齢者の歯科診療では、一般治療の他口腔ケアの提供が重要な役割となっており、特に施設への訪問診療では、寝たきりや認知症をもつ要介護高齢者の口腔ケアを担当することも多い。近年では、誤嚥性肺

炎と口腔細菌との関連を示唆する文献や報告も増え、誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが重要であることが一般化されつつある。重度の寝たきりでは、経管栄養にて生命維持を図られている高齢者も多く、経口摂取が途絶えていることにより、口腔内が汚れ、乾燥をとまっているケースも散在する。このような対象者には口腔ケアを行う際に、口腔の湿潤を回復させ、円滑に汚染物の除去を行うとともに、口腔ケア後の口腔乾燥の予防として、口腔保湿ジェルが多用される。

今回、ジーシー社より発売されたオーラ

ルアクアジェルは、口腔保湿成分が含まれたジェルで、要介護高齢者の口腔ケアはもとより、一般外来にて来院する高齢者の口腔乾燥や口腔カンジダ症の再発予防にも応用している。本稿では、それらの一部を写真にて紹介する。オーラルアクアジェルは化粧品(歯みがき類)であり、医薬品のように薬理効果を期待できるものではないが、安全に広く応用できる材質であるため、その保湿効果を活かした口腔内環境の維持・改善など、積極的に応用し利用範囲の拡大を期待するところである。

### 活動内容について



1-1 医療法人尚寿会全景:筆者の勤務する病院は埼玉県南部に位置し、法人全体で療養型、精神などの病床805床を持つ。そのほとんどが要介護高齢者の入院である。



1-2 在宅での訪問歯科口腔衛生指導:当科では、歯科一般診療のほか、在宅での訪問による口腔ケア指導も行っている。



1-3 施設での口腔ケア:院内の入院患者のほか、近隣施設で口腔ケアが困難な患者に対しても、訪問にて歯科口腔衛生指導(口腔ケア)を行っている。



1-4 歯科診療室での口腔ケア:入院患者の日常口腔ケアは看護・介護職の業務であるが、口腔ケアが困難な患者の場合、定期的に歯科診療室で口腔ケアを行っている。



1-5 重度認知症患者の口腔ケア:重度の認知症があり、ケアに対して強い抵抗を示す患者の口腔ケアも歯科の重要な役割となっている。

**経管栄養、意識障害、口腔乾燥をもつ要介護高齢者の特徴**



**2-1** 経管栄養中の患者：近年では胃瘻増設術の簡素化により、経鼻経管栄養の患者は減少したが、急性期や短期間の栄養確保としては用いられている。



**2-2** 経管栄養中の患者口腔内：経口摂取していないために、口腔内は乾燥し、汚染物にて不潔な状態になっている。開口量も少ないため、口腔ケアをしにくい状況である。



**2-3** 舌苔：長期間経口摂取していない状態や、摂食・嚥下障害をもつ患者の場合、舌の動きが悪いために不潔になりやすく、舌苔が強固になっていることが多い。



**2-4** 多発したう蝕：経口摂取していないために、唾液分泌が減少し、その結果、う蝕が多発する。長期間十分な口腔ケアがされていないケースでは写真のような状態が見られる。



**2-5** 意識障害のある患者：気管切開を実施されているが、呼吸状態が悪く常に開口した状態にあるため口腔内は著しく乾燥している。



**2-6** 乾燥した口腔：長期にわたり開口状態を呈し、十分な口腔ケアがなされていない状態。痂皮様の汚染物がいたるところにあり、口臭も強い。

**経管栄養、意識障害、口腔乾燥をもつ要介護高齢者の口腔ケア**



**2-7** 痂皮様の汚染物：痂皮様の汚染物をピンセットでつまむと剥離するが、その下の粘膜面まで傷つけることが多い。汚染物は粘膜の上皮を含む垢であると推測される。



**2-8** 以前の口腔乾燥を持つ患者の口腔ケアセット：口腔保湿ジェルが発売される前には、口腔乾燥をもつ患者では、唾液分泌を促すようにレモン水を使った口腔ケアを実施したり、人工唾液を噴霧することで対処していた。しかし、これらの方法では、口腔の湿潤を一定時間保つことは困難であった。



**3-1** 十分な吸引：口腔ケアを行う際には、ケアによって動かされた汚染物の誤嚥に充分注意する。必ず事前に口腔内を吸引し、流動性のある汚染物を除去しておくことが重要である。



**3-2** 吸引管付スポンジブラシ：最近では吸引管付のスポンジブラシが発売されているので、応用することをお勧めする。



**3-3** 開口してくれない場合の対処法：意識障害があり、硬く口を結んだままで開口してくれない場合は、開口保持用のバイトブロックや巻綿子などを使って安全に開口させるようにする。バイトブロックなどは歯牙破損や粘膜を傷つけることを防ぐために、上下歯牙が咬合する部分に入れる。



**3-4** オーラルケアジェル用の用意：口腔清掃に取り掛かる前に、オーラルケアジェルをスポンジブラシに取る。



**3-5** オーラルアクアジェルの塗布：スポンジブラシに取ったオーラルアクアジェルを口腔粘膜に満遍なく塗布する。薄く延ばすように塗布するのがポイントである。



**3-6** ブラッシング：オーラルアクアジェルが全体に行き渡った状態で、残存歯のブラッシングを行う。必要があればオーラルアクアジェルを歯ブラシにつけてもよい。



**3-7** 絶えず吸引を行う：ブラッシングを行っている間にも、汚染物の誤嚥を防ぐために絶えず吸引を行う。



**3-8** 口腔内に付着した痂皮様汚染物の除去①：オーラルアクアジェルを付けたスポンジブラシにて丁寧に該部位を拭い、除去する。



**3-9** 口腔内に付着した痂皮様汚染物の除去②：きれいに除去された汚染物。



**3-10** 口腔内に付着した痂皮様汚染物の除去③：経管栄養で経口摂取していない患者の口蓋に見られる痂皮様汚染物。



**3-11** 口腔内に付着した痂皮様汚物の除去④：オーラルアクアジェルを塗布したスポンジブラシで痂皮様汚染物全体を湿らせた後、ゆっくり慎重に剥がしていく。汚染物の誤嚥を防ぐために、奥から手前に除去するように注意する。



**3-12** 口腔内に付着した痂皮様汚物の除去⑤：なるべく一塊にして剥がすようにするが、粘膜面に強固にこびり付いている場合には、無理な力は掛けないようにする。



**3-13** 口腔内に付着した痂皮様汚染物の除去⑥：強固に付着している場合には、粘膜用ブラシにオーラルアクアジェルをつけて、剥がすようにする。



**3-14** 舌苔の除去①：舌苔が付着している場合にもオーラルアクアジェルを応用すると、除去が容易になる。



**3-15** 舌苔の除去②：舌苔全体にスポンジブラシを使ってオーラルアクアジェルを塗布し、舌苔が湿った状態にしてからスポンジブラシで擦り落とす。



**3-16** 舌苔の除去③：スポンジブラシでは落ちないほど強固に付着している場合は、粘膜用ブラシなどの柔らかい歯ブラシで擦り落としてもよい。



3-17 舌苔の除去④：オーラルアクアジェルを用いることによって、粘膜を傷つけることなく、舌苔の除去が可能となる。



3-18 口腔ケアを行う前の状態：口腔乾燥が見られ、舌や口腔粘膜の乾燥が亢進している。



3-19 オーラルアクアジェルを使用して口腔ケアした後：若干の乾燥感が残るが、粘膜面の湿潤は改善されている。



3-20 口腔ケア後の処置：口腔内の清掃が終了した後は、汚染物の誤嚥を防ぐための吸引をした後、口唇部にもオーラルアクアジェルを充分塗布して、乾燥を防ぐようにする。



3-21 意識障害をもつ患者の咬傷：意識障害を持つ患者では、オーラルディスクネジなどにより、咬傷を作ることがある。このような場合には噛んでしまう部分の歯牙を削るとともに、オーラルアクアジェルを塗布することによって再発を予防できる。



4-1 シューグレン症候群患者の口腔保湿：中年期以降の女性に多いとされるシューグレン症候群は、口腔乾燥を症状の1つとして持つ。唾液分泌促進作用をもつ薬剤も出ているが、その補助剤としてオーラルアクアジェルの塗布を筆者の病院では薦めている。



4-2 口腔乾燥を伴う舌痛症への応用例：2年前より舌の痛みを訴えて当科受診。軽度口腔乾燥と日によって変化する地図状舌を症状として示していた。神経科にも併診し、数種類の抗不安薬を服用している。就寝前のブラッシングや水分補給などを指導するも、劇的な改善は見られなかった。



4-3 オーラルアクアジェル使用後の改善：オーラルアクアジェルを乾燥感が増強した時に使用するよう指導したところ、約3週間で舌痛、乾燥感、地図状舌が改善した。



4-4 口腔カンジダ症再発予防の応用例①：総義歯装着者などに見られる紅斑性口腔カンジダ症は抗真菌薬「フロリドゲル」などの適切な投与で改善されるが、その後原因となる口腔乾燥などが改善されない場合は再発することが多い。



4-5 口腔カンジダ症再発予防の応用例①：そのため、抗真菌薬投与にて口腔カンジダ症が改善された後、オーラルアクアジェルを使用して口腔乾燥を防止し、口腔カンジダ症の再発予防を行っている。



4-6 口腔カンジダ症再発予防の応用例②：シューグレン症候群を伴った患者の急性偽膜性口腔カンジダ症。



4-7 口腔カンジダ症再発予防の応用例②：抗真菌薬投与にて口腔カンジダ症は改善されたものの、シューグレン症候群による口腔乾燥が改善されないため、オーラルアクアジェルにて口腔乾燥を予防し口腔カンジダ症の再発を防止している。